

マイクロ資料目録CD-ROMと検索システムの開発
 - パーソナル環境での国文学研究支援 -

6R-1

北村啓子 安永尚志
 国文学研究資料館 研究情報部

1. はじめに

当館では大型計算機によるDB検索サービスを行ってきた。国文学者のパソコン化現象に合わせてパーソナル環境での研究支援を1つの目標に掲げ、その第一歩としてマイクロ資料目録CD-ROMの開発を行った。まずパーソナル環境を含めた国文学の研究支援について我々の考え方を述べ、次に今回開発したCD-ROMについて報告する。

2. 国文学の研究対象とその支援環境

表に示すように、我々は国文学研究における学術情報を4レベルに分けて捉えている。[1]

	対象	情報形態	データベース/システム	システム利用形態
0次情報	古文書 絵、押し絵 書、香付け 和歌 興、芝居 音楽 語り	画像 映像、動画 音声	原資料データベース (オンライン電子図書館) 原資料DB構築システム 原資料流通システム 原資料研究支援システム 押し絵データベース	集中型データベース 大量同時アクセス ▼ プライベートライブラリ パーソナル画像処理
1次情報	活字本(翻刻 された本)	文字	テキストデータベース 索引作成システム 語彙分析システム 本文分析支援システム 文字セット管理システム 異本比較分析システム* 自動定本作成システム*	大容量記憶、計算機パワー 日本語環境 ▼ パソコンでテキスト入力 語彙分析プログラムの出現
2次情報	文献目録 書誌情報 所在情報 刊行目録	文字	古典籍総合目録データベース 刊行目録データベース 和古書目録データベース 逐次刊行目録データベース 論文目録データベース 各種典拠辞書利用システム 逐次データベース 自動抄録システム*	冊子体目録出版(年度毎) ▼ オンラインデータベース 検索(累積) ▼ プライベートライブラリ 蓄積にて
3次情報 高次情報	解題、概論、 評論	文字、音声	*構想	ネットワーク上で議論

国文学者も身近なパソコンを研究の道具として使うようになってきている。表中に示したように、各レベルでの研究支援システムをパーソナル環境で利用したいという要望が増加してきている。また、パソコン上で様々なメディアを比較的容易に扱えるようになってきており、他のレベルの情報を参照しながら研究材料を探したり、その分析をしたり、翻刻作業をしたり、つまりレベルを越え、メディアを越えて相互にリファレンスしながらの研究環境が期待されている。そこで改めて、従来の大型計算機環境と新しいパーソナル環境それぞれでの研究支援方法、および両者の有機的な利用形態の構想をたてることにした。様々な角度からの検討が必要であるが、ここではそれぞれの環境、ならびにその両者を結ぶネットワーク環境が担うべき機能について考察し、実際に機能の分担を行ってみる。

大型計算機環境

- ・マルチメディアDB構築(専用人力装置)
- ・マルチメディアDB管理(異種メディア情報の管理、利用者からのデータ登録管理)

ネットワーク環境

- ・マルチメディア情報の転送
- ・パソコン上検索システムと大型計算機上DBの同期
- ・研究者間のコミュニケーション
- ・ハイパテキスト的な議論の場、共同作業の場の提供

パーソナル環境

- ・マルチメディアデータのプロセッシング、分析
- ・異種メディア間相互のリファレンス(ハイパメディア)

- ・プライベートライブラリの管理
- ・プライベートなマルチメディアデータの入力
- ・プライベートライブラリのデータや研究成果の大型計算機上DBへの登録
- ・研究成果を他研究者との議論材料としてフィードバック

3. CD-ROMと検索システムの開発

パーソナル環境での研究支援として、最初に着手したのが目録型DBをCD-ROMで提供することである。今回開発したCD-ROMは、当館で収集しているマイクロ資料の目録データ約10万件(1976-1988)を収録している。このDBは既にオンラインによる検索サービスを行っているため、両者の環境の比較に適していると考えた。

- CD-ROMのデータ仕様の概略は以下の通りである。
- ・論理フォーマット: ハイシエラフォーマット
 - ・データ構造: 3次元構造インデックス(枝がりしながら高速サーチするための構造) → 一覧表示用データ → 詳細表示用データへポインタによる接続
 - ・データサイズ: 本体 約60Mバイト 索引 約40Mバイト
検索システムは、パソコンの特長を利用して使いやすさに重点をおいた。主な特徴を列挙する。
 - ・メニュー方式/コマンド方式 ・書名シソーラス機能
 - ・ルックアップウィンドウ機能による入力省力化
 - ・外字機能(188文字) ・和暦による検索
 - ・検索結果のプリント機能、ダウンロード機能
 - ・サンプルによるガイダンス機能 ・ファンクションキーの多用 ・表記(漢字)/読みによる検索
 - ・MS-DOS上の任意の日本語FEPを利用可能

4. 評価

現在、大学関係の国文学研究者、大学図書館、大型計算機センターなど約46サイトで試用、評価中である。現在までに館内で出てきた改良点をいくつか挙げておく。

- ・ダウンロードした結果の本システムでの再利用、市販ソフトウェアでの利用 ・日本語FEPのインライン変換
- ・検索集合に対するオペレーション ・中間一致検索

また、国文学者により本CD-ROMを利用した新しい研究方法発見の報告も聞こえてきている。副次的な効果として、本開発を機にCD-ROMドライブ装置を設置するサイトも多く、CD-ROM普及の貢献にもなっていると聞いている。

5. おわりに

現在、目録型以外のCD-ROM化(テキストDB、画像DBなど)を検討中である。今後、評価結果をもとに現検索システムの改良、国文学者にとって使いやすいMMIの検討を行う予定である。また、パーソナル環境も含めた研究支援環境については、引き続き多方面からの検討と同時に実現の中で実験を行って行きたい。

参考文献

[1]安永尚志, "国文学研究支援のためのコンピュータ利用" 人文科学とコンピュータ研究会, 89-CH-2, 2-6, (1989)